



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1932, 17(4): 319-322

ISSUE DATE:

1932-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184022>

RIGHT:

に萬葉地圖十葉をつけ、本文の外に寫眞十八葉、索引がある外、著者の吉野離宮考がつけてある、氏は近頃有名な宮瀧でなくて丹生川上にあるといふ吉田神社宮司森口氏の説をとつてゐられる、其他の地名については古來の定説と考へらるゝものを網羅しつくされてゐる、古代地理志を學ぶ人にこよなき參考書であると信じる。(F)

○滿洲事變と不戰條約、國際聯盟

松原一雄著

丸善出版 定價一圓五十錢

國際聯盟の取扱つた滿洲事變といふものゝ今日までの經過と諸外國の動きをしるした著述である、キハモノといへばいへるが、滿洲は我國防の生命線であるから、かうした著述は時にとつて、正に精讀されねばならぬと思はれる、歴史家のみではない、地理學者も常に國際政局の動きから目を放さないのが現世であるからである。(F)

○地理學概論

遠藤金英著 教育研究會發行

定價二圓五十錢

學習院教授遠藤學士の近什である、自然地理學前編には宇宙に於ける地球、後編は地球の形狀、内部、地方時、地圖の類をしるしつぎに陸地の形狀分布、地形の變化に及び、海洋大氣、生物を略序し、人文地理學では自然と人類世界の住民聚落、有用植物、動物、礦物、交通、國家等に及んで、經濟地理を包容してゐる、菊版二四八頁であるから手頃な參考書である、師範學校の補習教育などに好い讀本だと思はれる。

叙述平易で要項を列舉してあるのが、さうした教科書として都合のよい點であらう。(藤田)

雜報

○イタリーの絹業中心地

イタリーの絹工業は其起源古く、フロレンスのダマスコ織、ヴェニススのレース織、ゼ

ノアの天鵝絨は歐洲の名物として文藝復興時代以後今日に及んでゐるが、十九世紀の後半に至り、機械使用の時代となつたので、ミラノ近郊のココモ湖畔を中心としてイタリーの絹業は一大進歩をとげた、さうして従前安値の普通織物にかはつて上等品がコモから出るやうになつた、即リボン、絹メリヤス、絹靴下等を除いて、立派な絹工場は約二百ある職工約四萬人(大多數は女工)織機約二萬四千臺、手織機臺三千、このうちコモはその三分二を占める、染色、型附、練上等の工業がこれに伴生し、コモにはこのために新式大工場が續出して約六億圓生糸の使用料一ヶ年八十萬冠、屑糸二千二百五十冠、人絹糸八百萬冠を消費してゐる。

婦人服地は其重要なもので、大戦前は原地であつたが近頃は薄地が流行した、工場も専門的になりだした、捺染では婦人服、芝居衣裳及裝飾布であるが、一九一八年までは手工業であつたが、以後コモ附近に機械染が出来だした其總産額は四千萬圓である。イタリーのネクタイは世界流行の魁をな

し、機械二千臺、手織器五百臺二千八百萬圓を産するが、このネクタイはミランが中心である。

ミランには洋傘布地を出して、二千四百萬圓からの産出をつゞけてゐる、ピロイドは昔はゼノア、ミラン、トリノに發達し手織機百五十臺がある、しかしレッコ、モンザ、トリノ方面にもこの製造家があつて約五百臺を算し一九三〇年には百二十萬メートルを出し世界的商品となつてゐる。

其他ハンケチ、肩掛、旗地等はミラン及コモでつくられリボン類も特産品といはれてゐる、袖口や裾につけるヴオラン、及レース類はミランが中心である。

○昭和六年の世界經濟界

昨年（一九三一年）に於ける世界經濟の趨勢をみると、地理學の教師は單に地形や産物の多少のみを扱つてゐては世の中がわからない程に變つてきたことがわかる、どうしても現代の世界不況の原因を明にし、これに對する我國民の努力を求めねばならぬやうに思はれる。

世界大戦後一時は復興の景氣で世の中が陽氣であつたが二三年前から各國の復興の努力が逆に世界市場を驚かし、世界は却つて不景氣になりそれが段々と深刻化してきた、棉花小麦羊毛等重要商品が生産過多になつて市價が低落し、そのために各國産業界を不況にし、失業者は未曾有の激増となつた一般國民所得の減退、商取引の不振のために、各國財政は概ね歳入減となり、赤字補填のために或は國內産業保護の爲に關稅を引上げ、輸入を制限し大英帝國のごとき、いよ／＼昭

和七年二月一日から一割の從價税をかけて、國産品使用獎勵をやりだした、永い世紀に亘つて自由貿易を誇とした英國も一昨年來の産業不振で失業者が増加し、その労働者を救済する失業手當がベラボウに高かかったので、歳入が不足し遂に十一億圓の赤字をだした、め六年八月二十四日労働黨内閣は辭職し、マグドナルドの轉身で協力内閣は保守黨の内閣になつてしまつた、その以前から英國は不況に苦しみ、英蘭銀行は五月に公定割引歩合を二分半に引下げてゐたが、六月になるとドイツの經濟的危機が影響し、佛國や其他の國人が自衛上英國へ投資してゐた資金を急に引上げだしたので之が防止をはかつて、金利を高くしたが、却つて蠶蛇になつて、各國の引出し止まず、萬策つきて九月二十日に金本位を停止して、これ又永い間世界金融の標準であつた英貨磅はその王位を米國のドルに譲らねばならぬやうになつた。

印度の、ガンデーの獨立運動や上海の騷亂などがその後に繼起したので、英國は遂に保護關稅國となり、其自治領には特惠關稅を認めてゆくらしいが、果してそれが有力に働いて英國の景氣を恢復するや否やは目下明でない。

世界金融の中心の移動は昨年の始頃から現はれた、これ迄長期にわたる資金の貸出しがあつたが、不景氣と共に短期でなくては貸さなくなつて、世界の金貨は米國と佛國とに流入し偏在しはじめたが、五月オーストリー國の大銀行クレディットアンシュタルトの破綻を動機とし、獨逸國を襲へる經濟的恐慌は非常なセンセーションを惹起し、米國大統領は七月

になつて獨逸の破産を助けるために戦債賠償支拂延期に關する聲明をした、しかし一年やそこら延期したとて、下り坂に向つた獨逸の財政の見込がたゞぬ、猶太人は其金貨を獨逸の銀行から引出して、他國に入れかへるし、米國や佛國の資本家もあわてゝ獨逸へかした金を引き出したので、獨逸は全く破産に近づいた、そこで昨年末にはヒンデンブルク大統領は緊急命令を出して家賃を一割減じ物價を政府で公定するやうにもなつてきた、一波萬波を生じて其の勢はまづ英國の金本位を停止せしめたところ、其の政策に従つて、外國へ資金を引き上げられぬやうにした國はノルウェー、スエーデン、丁抹の諸國であつたが、やがてポーランド、エジプト、南北ローデシヤ、ポリビヤ、コロンビヤ、カナダ、インド、イタリイ、ドイツ、チェッコ、ユーゴスラヴィヤ、ハンガリー、オーストリー、ブラジル、アルゼンチンいづれも爲替管理をやるやうになり、日本も亦金輸出禁止といふことになつた。

一方米國をみると棉花小麦が安いので一般農民の購買力が不足し、景氣がわるいと同時に海外が不況だから主要工業中自動車、鐵銅石油、化學工業等いづれも賣行わるく破産するものが續出し隣國のカナダも小麦が値下りで人民は不景氣に苦しみ、歳入が不足してゐる。フランスは遑早くポアンカレが平價切り下をやつて、フランスの安定をはかつたので貿易は不振であるけれども金貨を國內に引上げたので最も安全に暮してゐるが、之に反してドイツはこの形勢では政變があるかもしれない、とても戦債は拂へないといつてゐる。

ソヴィエツト聯邦も最初は品物を多産して、投資をやれば金が入る。その金で器械を買つて工業化をするといつてまはつてみたが、この世界の不況と各國の關稅政策で思ふ通りに計畫が實行出来ない、多くの國立農場で甜菜糖をつくらし、それで製糖をやる計畫であつたが、農民はそれを造くらないで自分の牛や豚を飼うといふ風になつてゐるので、砂糖も思つた程に出来ないといふ事情である。

支那が困つてゐることは申迄もない、世界一統に不景氣であるが我邦のうけた影響も甚大である。しかしこの間に於て棉製品の新市場を支那以外に開拓し、人絹、ゴム靴等新興商品の輸出増進といふ二つの事實があつた、ドイツやロシヤの人々が其貨金を低下して競争をはじめてきた時代である、物價を廉くして之を以て關稅競争に出てゆくといふより外に日本の景氣恢復策はない、滿洲が平和になつて日本商品のハケ口を見付けるといふことも好ましいことであるが、比較的今日迄の日本は世界の他の不景氣に比べて、それ程にもないやうである。國民の努力緊揮一番すべき秋である。(F)

○トルコに於ける日本綿布

從來トルコでは伊太利の綿布が賣られてゐたが、近時日本綿布が進出して伊太利の位置を奪うことになつたので、イタリイの言論界で日本との競争をのべるやうになつた。

第一にイタリイ綿布の價格を日本品同様にすればよいが、日本綿布は格安である、日本と同様にすることは絶體不可能であるといふ見解である日本品は工賃が安い、日本品は二三

の同種同型品を大量に生産するからそれで安い、トルコの支拂は日本品に對し現物受取後六十日拂であるが、イタリー品は六ヶ月拂であるけれども日本人は必しも短期支拂を強要しないから同様の状態である、とにかく日本品は格安である、それと競争するためにイタリー綿布の品質を日本品に近似せしめ色調模様を多種多様とし、トルコ人の嗜好に投じて、少々高くとも伊太利品を買はす事、同時に生産費の低下をはかること、運賃問題も、横濱コンスタンチノープル間の運賃に比してトリュステ、マンスタンチン間の運賃が同額であるといふやうなことを改正しトルコの關稅改正をやつてイタリー品に有利に日本品に不利ならしめるがよいとかういふ論調で

○享保以後の地理關係出版書目 (大阪)

書名

作者

板元

出願

西國順禮行程圖 一枚

寺島順安(南瓦河)

秋田屋市兵衛(安堂寺町五丁目)

享保十一年八月廿日

關東廿四輩巡詣記 一冊

宗願寺(下總古河)

富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)

享保十二年十月六日

江戸道中獨案内折本一冊

毛馬屋八郎右衛門(上本町三丁目)

毛馬屋八郎右衛門

享保十三年八月

攝州方格繪圖 一枚

富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)

富士屋長兵衛

享保十五年三月

境之圖六枚つゞき一枚 河合幽閑(寺池町)

播磨屋十兵衛(島町二丁目)

本屋傳七(心齋町)

享保二十年四月七日

和泉國繪圖六枚つゞき一枚

播磨屋十兵衛(島町二丁目)

丹波屋利兵衛(南久寶寺町)

享保二十年

大和國大繪圖 一冊

諸工高木幸助(せんだん木筋渡路町)

伊勢屋新兵衛(三郎右衛門町)

享保二十年

伊勢道中繪圖

繪師高木幸助(北鍋屋町)

譽田屋伊右衛門(博勢町)

享保二十一年二月

有馬細見圖

畫工江阿彌卜信

大津屋興右衛門(日向町)

元文二年七月

大阪大繪圖 一折

久保重宜(攝州赤川村)

富士屋長兵衛(高麗橋一丁目)

元文三年十二月

攝州神社廻り圖 一折

支那人秋田屋市兵衛(安堂寺町五丁目)

千紳屋新右衛門(曾根崎村)

元文四年五月

大阪四十八箇寺阿彌陀順禮記 一冊

支那人秋田屋市兵衛(安堂寺町五丁目)

九應寺(生玉寺町)

元文五年四月

ある。
それは日本はトルコから何も買はないで只安物をうりこむのみであるが、伊太利はトルコの物産を買ひ又イタリーの物産をうつてゐるので、バランスがとれてゐるから、トルコ國として差別待遇をなさしめる理由があるといふのである。
いづれにしても日本綿布のトルコ輸入額はまだ、少額で問題ではないが、しかし日本品の進出といふことが直ちに他の國に影響する時代となつたことを示めす好材料であり、關稅戰爭といふものが、今後世界的に強くなる傾向をしめすものとして讀者に之を報告しておきたい。